

守山企業景況調査報告書

(第46回)

令和3年1月～令和3年3月期 実績

令和3年4月～令和3年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和3年1月～令和3年3月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	13	65.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	14	73.7%
卸売業	5	3	60.0%
合計	69	52	75.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和3年1月～令和3年3月、見通しを令和3年4月～令和3年6月とし、調査時点は令和3年4月30日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和3年1月～令和3年3月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和3年1月～3月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの4指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲11.8で前回調査の▲47.1から35.3ポイント上昇した。業種別では、小売業0.0（前回調査比+57.1）、製造業▲8.3（前回調査比+55.3）、建設業20.0（前回調査比+20.0）、サービス業▲61.5（前回調査比±0.0）、卸売業33.3（前回調査比+58.3）とサービス業以外の4業種は上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲24.0である。

<売上高>

売上高DIは▲26.9で前回調査の▲49.1から22.2ポイント上昇した。業種別では、小売業▲7.7（前回調査比+42.3）、製造業▲16.7（前回調査比+28.8）、建設業0.0（前回調査比+11.1）、サービス業▲78.6（前回調査比▲5.3）、卸売業0.0（前回調査比+50.0）であり、サービス業以外の4業種が上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲11.5である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲13.5で前回調査の▲45.3より31.8ポイント上昇した。業種別では、小売業0.0（前回調査比+42.9）、製造業8.3（前回調査比+62.8）、建設業10.0（前回調査比+21.1）、サービス業▲64.3（前回調査比+2.4）、卸売業0.0（前回調査比+25.0）で5業種全てで上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲17.3である。

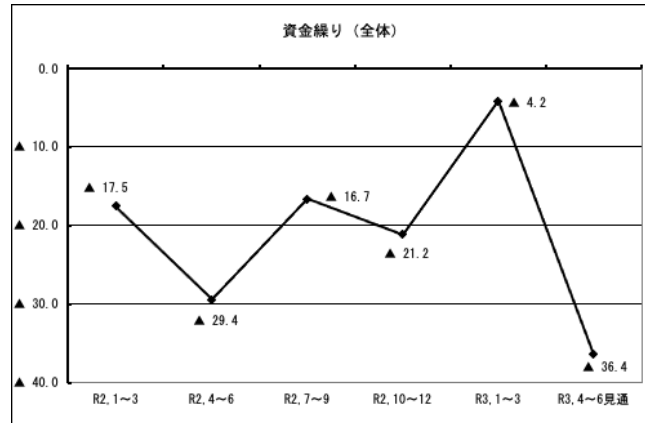
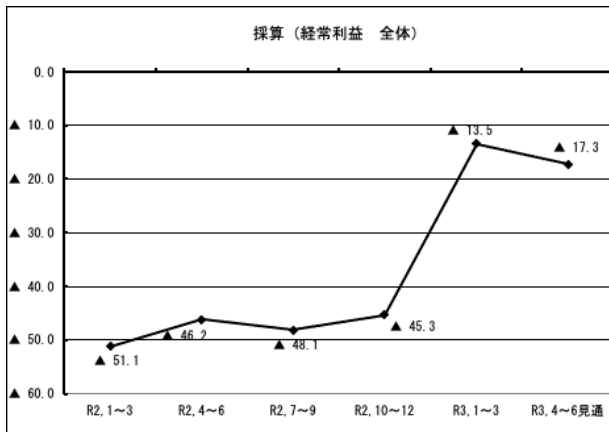
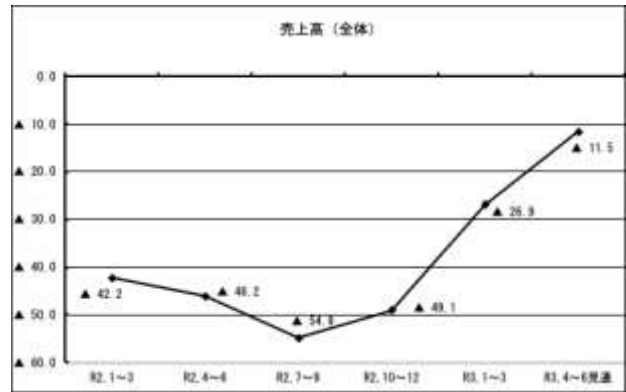
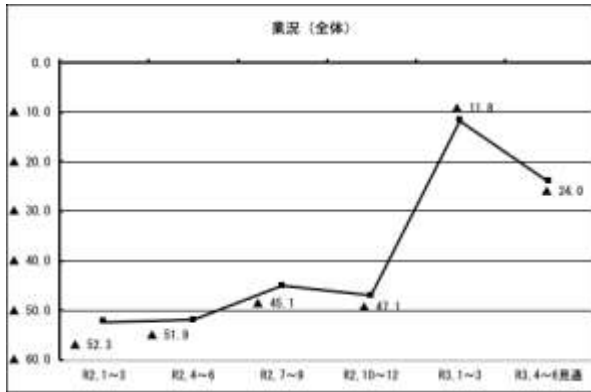
<資金繰り>

資金繰りDIは▲4.2で前回調査の▲21.2から17.0ポイント上昇した。業種別では小売業▲7.7（前回調査比+20.9）、製造業▲10.0（前回調査比+10.0）、建設業30.0（前回調査比+30.0）、サービス業▲23.1（前回調査比+10.2）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で卸売業以外の4業種で上昇した。

4月～4月期見通しは全体で▲36.4である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・材木等の建材供給が滞ってきつつあるという情報があり、結果住宅供給能力の低下の恐れがある。また、民間購入力あるいは意欲低下の傾向がある。
- ・乳児、幼児のいる所や医療従事者の所は気を使います。



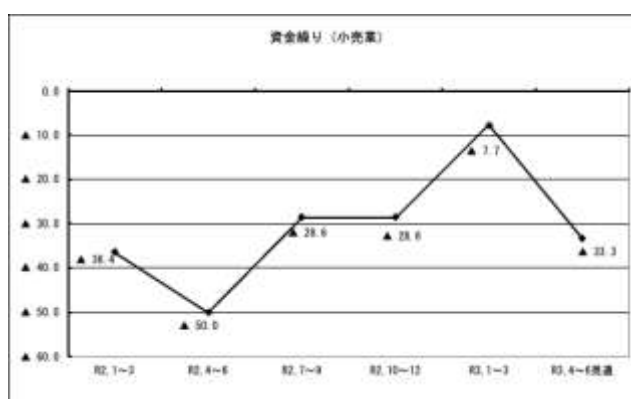
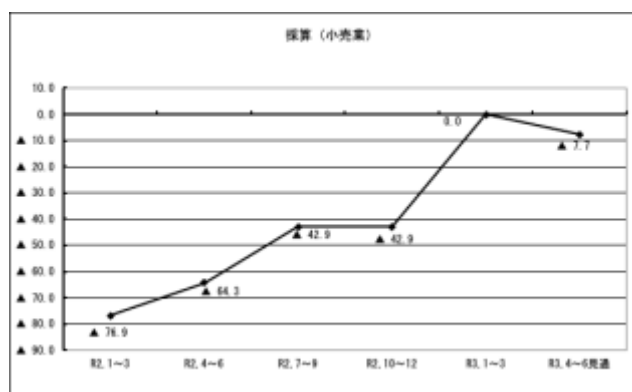
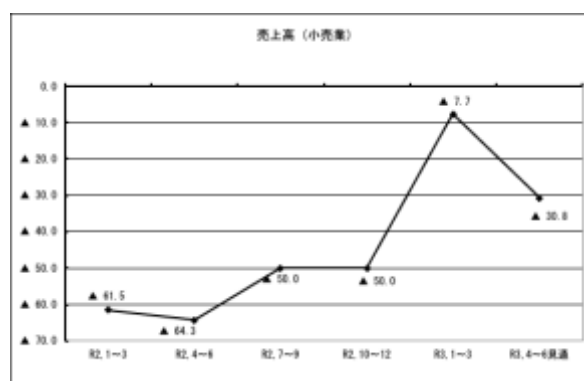
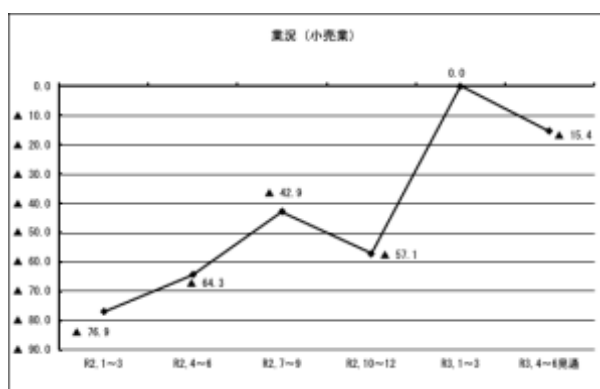
小売業

小売業の業況 DI は 0.0 で前回調査に比べて 57.1 ポイント上昇した。令和 2 年の 1 年間はマイナスの数値のまま推移してきたが、令和 3 年になって一気に回復した。内容を見ると前回調査より業況が良いと回答した数が増え、悪いと回答した数が減っている。4 月～6 月期見通しは▲15.4 であった。

売上高 DI は▲7.7 で前回調査より 42.3 ポイント上昇した。売上高も令和 2 年の間は▲50 以下の数値が続いていたが、今回調査では大きく改善した。4 月～6 月期見通しは▲30.8 と低下しており、予断を許さない。

採算 DI は 0.0 で前回調査より 42.9 ポイント上昇した。業況、売上高が大きく上昇する中で採算も大きく改善する結果となった。4 月～6 月期見通しは、▲7.7 で採算に関しては大きな悪化予想になっていない。

資金繰り DI は▲7.7 で前回調査より 20.9 ポイント上昇した。他の 3 指標の改善が資金繰りの改善につながっているようである。4 月～6 月期見通しは▲33.3 と大きめに下っている。



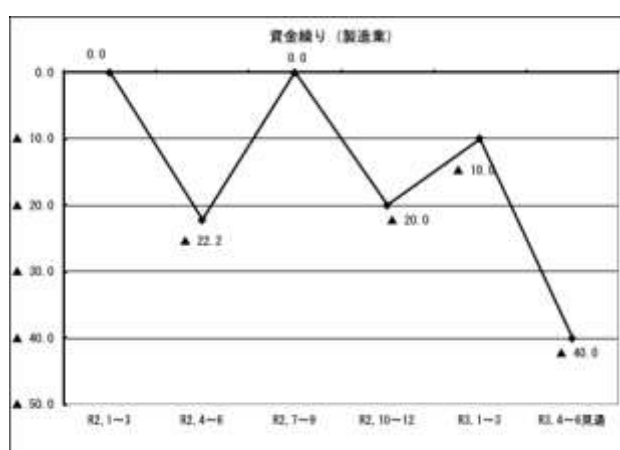
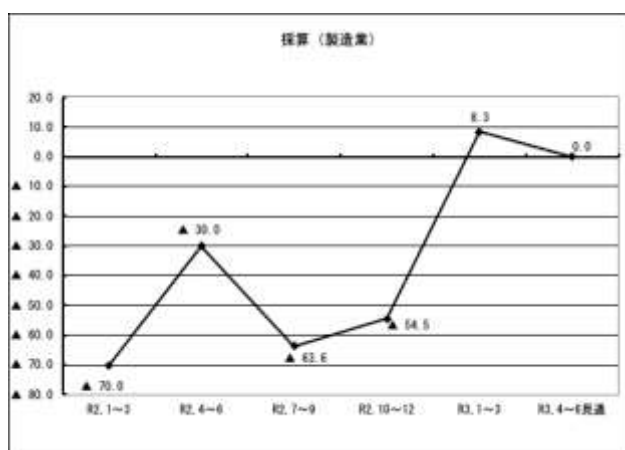
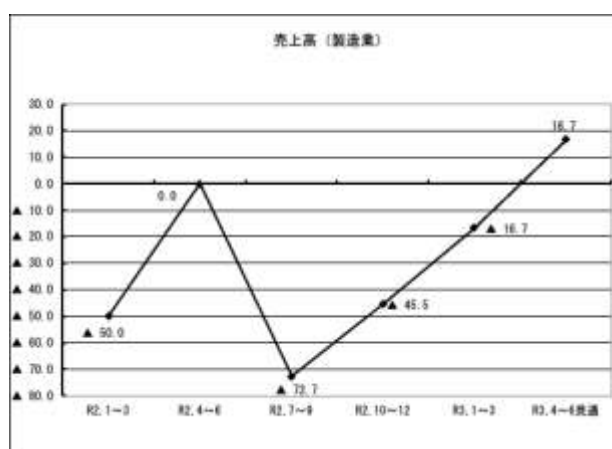
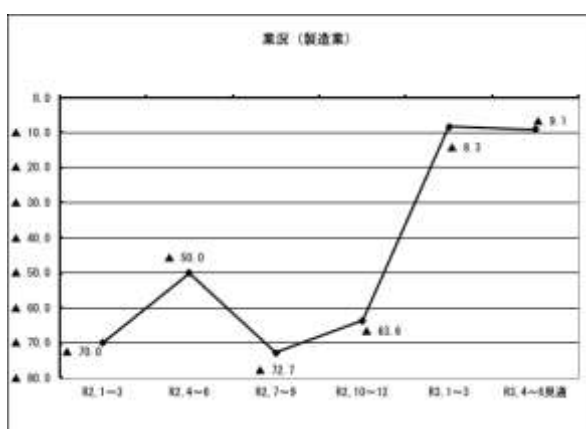
製造業

製造業の業況DIは▲8.3と前回調査に比べて55.3ポイント上昇した。令和2年の1年間は▲50.0以下で推移してた業況DIが一気にマイナス一桁まで回復した。4月～6月期見通しは▲9.1と今回実績よりわずかに低下している。

売上高DIは▲16.7で前回調査と較べて28.8ポイント上昇した。前回調査時点でも26.7ポイント上昇しており、令和2年7月～9月期を底にV字回復の様相である。4月～6月期見通しも16.7とさらに上昇している。

採算DIは8.3で前回調査より62.8ポイント上昇した。業況、売上高と同じく前回調査から大きく上昇している。4月～6月期見通しは0.0で若干の低下が予想されている。

資金繰りDIは▲10.0で前回調査から10.0ポイント上昇した。過去の例からするとDIが回復する順であるが、回復幅が今回は小さくマイナスの数値となった。4月～6月期見通しは▲40.0と大きく下げており、資金繰りに不安を覚えているようである。



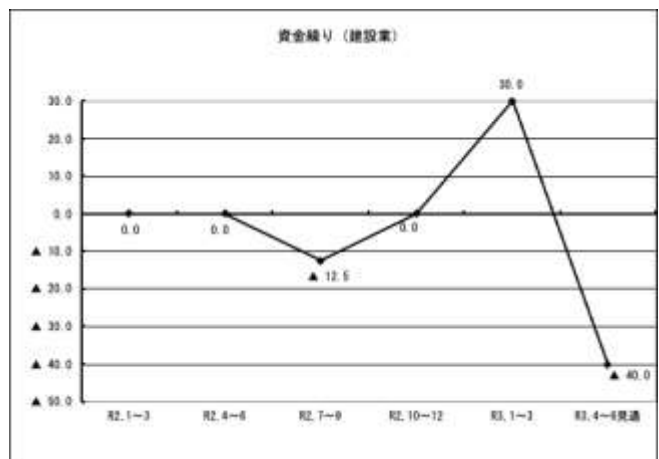
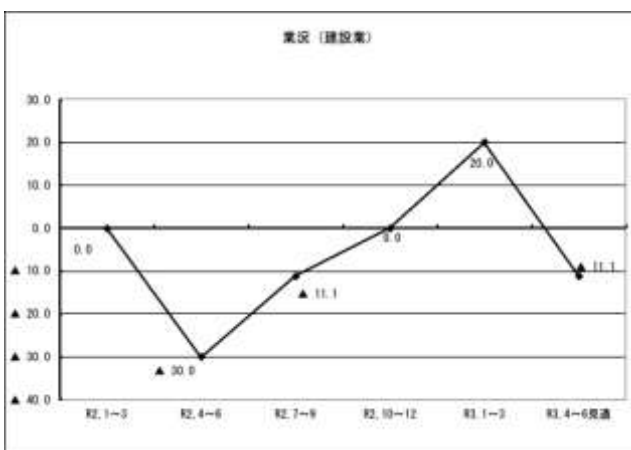
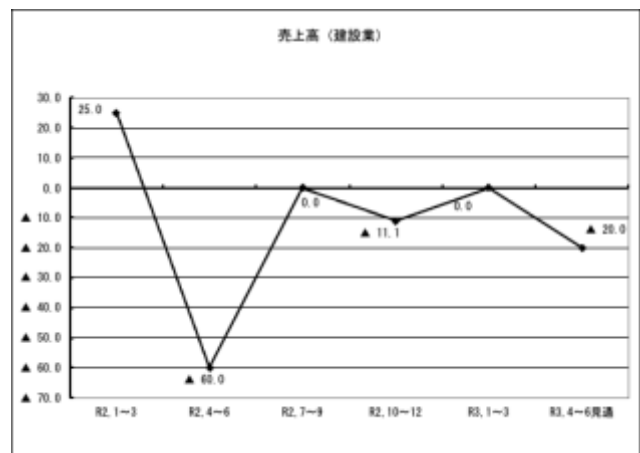
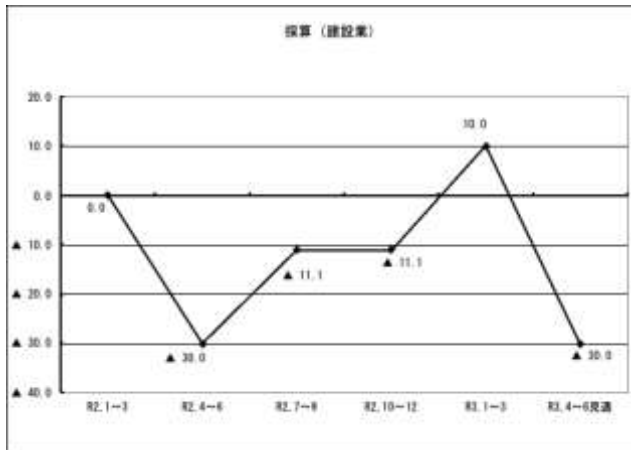
建設業

建設業の業況DIは20.0であり前回調査から20ポイント上昇した。3四半期連続の上昇である。過去1年を振り返っても業況DIが0.0を超えることがなかったので、今回調査時点での業況は良くなっていると言えるのではないかと考えられる。一方で4月～6月期見通しは▲11.1で30ポイントを超える低下なので、この先は安心できないようである。

売上高DIは0.0で前回調査より11.1ポイント上昇した。前々回調査が0.0、前回調査が▲11.1で今回が0.0となり前回下げた分だけ戻した形である。4月～6月期見通しは▲20.0と低下予想なので業況と同じく安心できない。

採算DIは10.0で前回調査より21.1ポイント上昇した。令和2年1月～3月期は0.0であったので、1年前の同時期より採算は良くなっていると考えられる。4月～6月期見通しは▲30.0と大きく低下しており、採算でも安心はできない。

資金繰りDIは30.0で前回調査より30ポイント上昇している。建設業の資金繰りは前々回調査を除けば過去から0.0になることが多いが、今回調査では30.0になりかなり資金繰りが良くなったように見える。しかし、4月～6月期見通しは▲40.0と70ポイントの低下予想で資金繰りが危惧される。



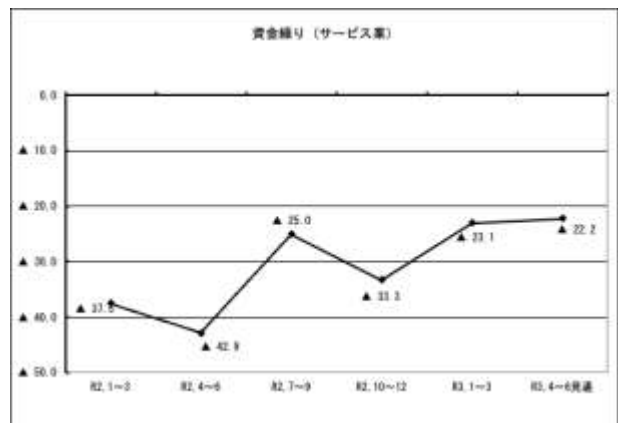
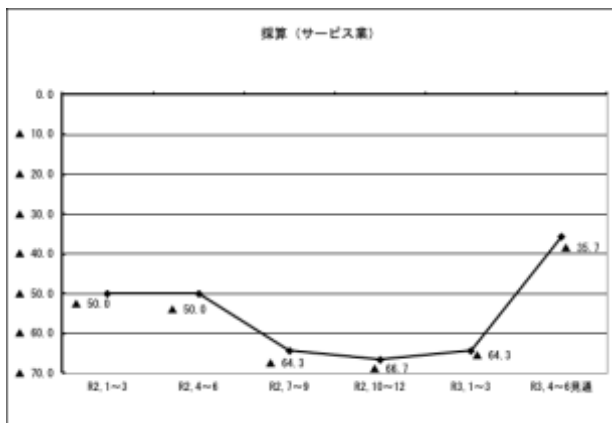
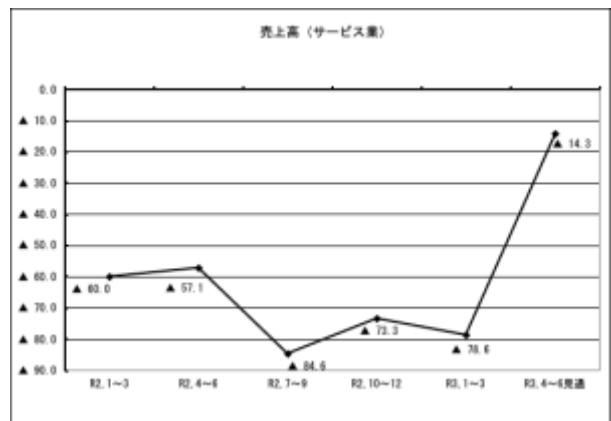
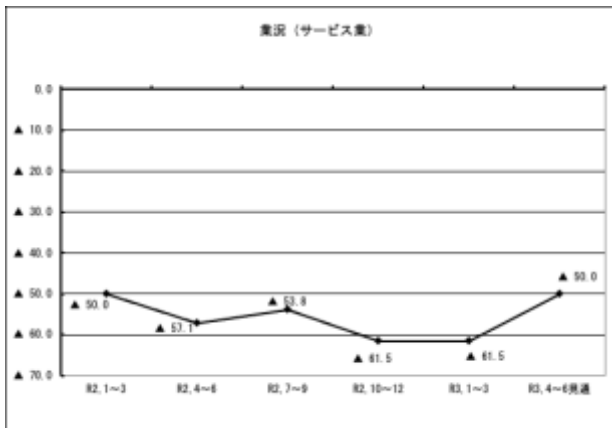
サービス業

サービス業の業況DIは▲61.5で前回調査と同じであった。過去1年間は▲50.0以下の数値しか並んでおらず、非常に厳しい状態のままである。4月～6月期見通しも▲50.0で出口が見えてこない。

売上高DIは▲78.6で前回調査より5.3ポイント低下した。売上高DIも過去1年間▲50.0以下が続き、今回も▲78.3で相当厳しい状態が継続されている。しかし、4月～6月期見通しは▲14.3と大きく改善しており売上高は出口が見えそうになっているのかもしれない。

採算DIは▲64.3で前回調査より2.4ポイント上昇した。採算でも過去1年間▲50.0以下のまま推移し、今回も▲64.3と低いままであった。4月～6月期見通しは▲35.7と売上高と並んで明るい兆候が見えているようである。

資金繰りDIは▲23.1で前回調査より10.2ポイント上昇した。4月～6月期見通しは▲22.2であり、資金繰りは良くはないものの安定してきている。



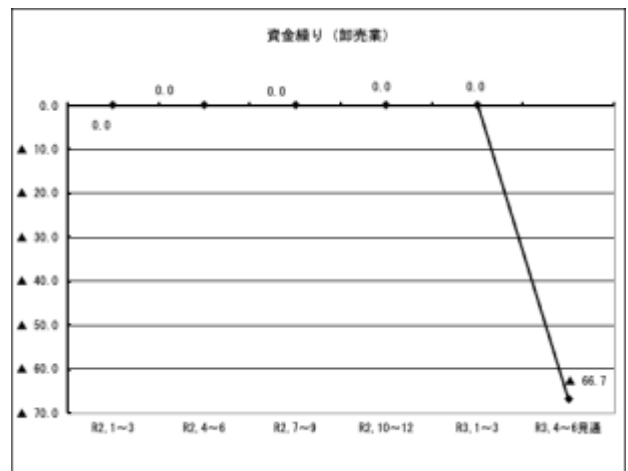
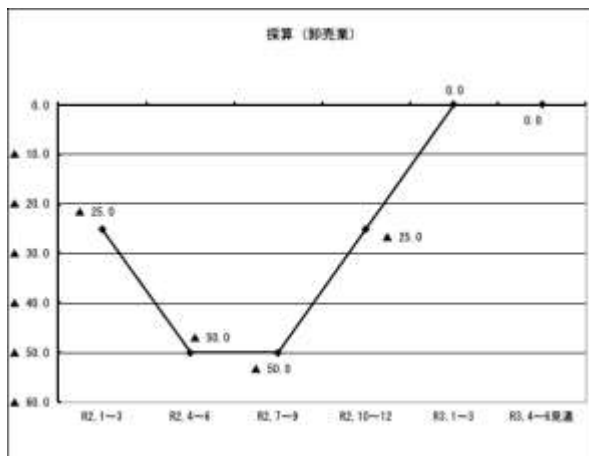
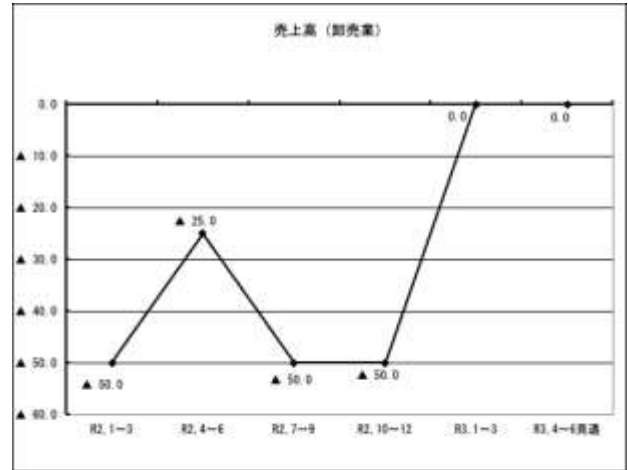
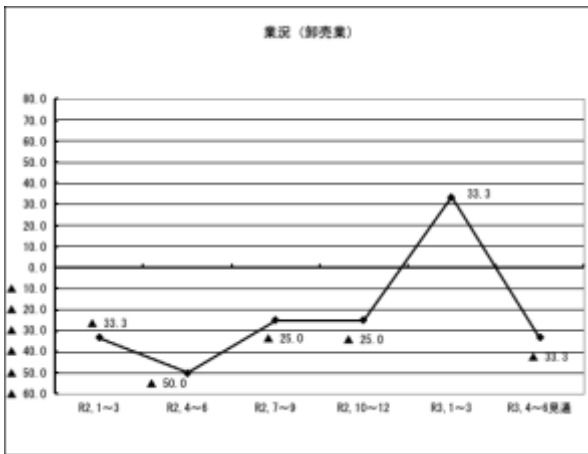
卸売業

卸売業の業況DIは33.3で前回調査より58.3ポイント上昇した。令和2年の1年間がマイナス続きであったのが今回調査時点で大きく数値が上昇したことで業況が良くなったと見ることができる。しかし、4月～6月期見通しは▲33.3なので業況の改善は長続きしないと予測されている。

売上高DIは0.0で前回調査より50.0ポイント上昇した。令和2年は▲50.0と▲25.0が並んだので今回調査の0.0はかなり回復したイメージを与える。4月～6月期見通しも0.0なので売上高は回復基調にあるのかもしれない。

採算DIは0.0で前回調査と比べて25ポイント上昇した。2四半期連続で25.0ポイントずつ上昇しており、採算は回復基調といえる。4月～6月期見通しも0.0なので回復基調は継続されそうである。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。卸売業の資金繰りは安定的な動きを見せている。しかし、4月～6月期見通しは▲66.7と極端に低下しており注意する必要がある。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	▲ 11.8	▲ 24.0	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 13.5	▲ 17.3
小売業	0.0	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 30.8	0.0	▲ 7.7
製造業	▲ 8.3	▲ 9.1	▲ 16.7	16.7	8.3	0.0
建設業	20.0	▲ 11.1	0.0	▲ 20.0	10.0	▲ 30.0
サービス業	▲ 61.5	▲ 50.0	▲ 78.6	▲ 14.3	▲ 64.3	▲ 35.7
卸売業	33.3	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	19.2	▲ 2.0	▲ 26.5	▲ 35.4	▲ 4.2	2.1
小売業	15.4	0.0	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 9.1	0.0
製造業	41.7	18.2	▲ 41.7	▲ 27.3	▲ 8.3	▲ 16.7
建設業	40.0	0.0	0.0	▲ 20.0	33.3	22.2
サービス業	▲ 28.6	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 15.4	▲ 7.7
卸売業	100.0	33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	66.7

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	▲ 4.2	▲ 36.4	4.8	4.9	4.8	5.0
小売業	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 12.5	0.0	0.0
製造業	▲ 10.0	▲ 40.0	9.1	10.0	9.1	10.0
建設業	30.0	▲ 40.0	12.5	12.5	12.5	12.5
サービス業	▲ 23.1	▲ 22.2	9.1	8.3	0.0	0.0
卸売業	0.0	▲ 66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

